

社会福祉法人けやきの杜

第16回こども作文コンクール 受賞者・受賞作品のご紹介

国分寺市内の小学校5・6年生のみなさんを対象に、
「障がい者も高齢者も暮らしやすい国分寺にするために」
～ひとりがみんなのために、みんながひとりのためにできること～
というテーマで作文を募集いたしました。

福祉や国分寺について深く考え、自分なりの言葉にして応募してくれた
みなさん、本当にありがとうございました。

いずれも素晴らしい作文ばかりでしたが、厳正なる審査により、10名の
入賞作品を選ばせていただきました。

受賞者のみなさまの作品をご紹介いたしますので、どうぞご覧ください。

金賞 国分寺市立第四小学校

増澤 瑚夏さん

国分寺市立第九小学校

野田 悠莉さん

銀賞 国分寺市立第三小学校

貝沼 采音さん

国分寺市立第四小学校

佐野 楓さん

国分寺市立第四小学校

檜山 遥月さん

国分寺市立第四小学校

安田 陽向さん

銅賞 国分寺市立第四小学校

飯塚 紗音さん

国分寺市立第四小学校

杉本 梨々子さん

国分寺市立第四小学校

フリツツ 理央さん

国分寺市立第四小学校

吉田 葉月さん

第16回こども作文コンクール
金賞作品

『自由に動けない人も皆と同じくすごすために』

国分寺市立第四小学校
増澤 瑞夏

わたしは元々ほねが弱くてすぐ折れてしまうので車いすですごしています。生活していてこまっていることを考えてみました。

一番こまるのは、入りたい建物があっても高いだん差や階だんがあって入ることができないことです。わたしが通学している第四小学校はスロープやエレベーターが設置されているので、みんなと同じようにじゅ業を受けることができます。が、外へ出るとみんなと同じように行動することができません。歩ける人からすると、何とも思わないだん差でも、

わたしたちのような車いすでい動する人や、足やこしが悪い人にとっては、大きな負たんとなります。

次にこまっているのは、道がせまいことです。歩道がせまく、できるだけはしの方を進んでいても、反対側から来る人とすれちがう

ことがむずかしいです。車いすに乗っている分、はばをとってしまうので、そんな時にはもうしわけなく思ってしまいます。

国分寺市には良い所もたくさんあります。新しい市役所には、エレベーター、エスカレーター、多目的トイレがあり、だれでも来やすい工夫がたくさんありました。そんな建物が増えていくといいなと思いました。

生活している中でこまっていることや、大変なことを、しっかりと伝えていくことで、国分寺市をもっとより良い市にできると考えます。わたしは少しでも国分寺市のバリアフリー化にこうけんするために、自分の思っていることを伝えていきたいです。それが、障がい者も高齢者もくらしやすい国分寺にする助けになつたらうれしいです。

第16回こども作文コンクール
金賞作品

『いいとこ増やそう国分寺』

国分寺市立第九小学校
野田 悠莉

わたしの住んでいる国分寺市が障がい者も高齢者も暮らしやすい国分寺市にするためにどうしたら良いのか三つ考えました。

一つ目は、歩道の幅を広くする事です。なぜなら、わたしの通学路は人がすれちがうのもやっとな位せまい所があるので、車いすやつえをついている人がすれちがうのは大変だと思っているからです。

二つ目は、市内全部の公園にだれもが楽しく遊べる遊具を作る事です。なぜなら、三年生の時に公園で遊んでいたら障がい者しせつの人達も遊びに来ていた事があります。その中で、車いすの子だけが遊べていなくて、さびしそうな顔をしていて、わたしも悲しい気持ちになり、家に帰ると中でさっきの子の事を思い出して、(あの子も楽しく遊べる遊具があつたらいいのになあ。)と思ったからです。

三つ目は、保育園や小・中学校の行事で高齢者の人達と交りゆうをする機会を作る事です。なぜなら、保育園のころに参加したデイサービスのバーベキューが楽しかったからです。高齢者の人達はわたしの話を楽しそうに聞いてくれて、うれしい気持ちになりました。だから、他の子達にもそんな体験をしてみてほしいと思うからです。それにおたがい知り合いになつておくと、こまつった時に助け合いやすくなると思うからです。

国分寺市は緑と自然がゆたかな市という特色のある市ですが、それだけではなく、高齢者やしうがい者にもやさしい市という特色を増やしたいです。

第16回こども作文コンクール
銀賞作品

『相手の気持ちを考えて、自分ができる小さな一歩』

国分寺市立第三小学校
貝沼 采音

私は、このまえ母と電車に乗りました。私の母が足をけがしていたので、電車の席をおじさんがゆずってくれました。私はその時、ゆずってくれた感謝の気持ちと、なんだか心がぽかぽかしました。

そして、しばらくすわっていたら、目の不自由な方がつえをついていました。私と母はそれに気付いて、席をゆずりました。そうしたら、目の不自由な方が、ほほえんで、「どうもありがとうございます。」といわれて、すこしでも助けになれてよかったです。

私はこの経験で、どんな人でも、見た目だけでは分からなくても、勇気を出して、自分から行動をしたら、すこしでもだれかの助けになれると思った。

だれもゆずってないから私もいいやと思わず、みんなが〇〇（マルマル）だからといって、勇気を出して声をかけ、少しでも不利がへるよう、行動したいと思います。また、みんなが思いやりを持ち、意識すれば、よりよい国分寺になると思います。

第16回こども作文コンクール
銀賞作品

『思いやることの大切さ』

国分寺市立第四小学校
佐野 楓

「お先にどうぞ」

この言葉は私が駅に自転車で行くときに一番多くしゃべっていると思う言葉です。なぜかと言うと、この道は交通量が多く、車道には怖くて出れません。なので私は歩道でどういう人にもゆずっています。

そしてある日、一人のおばあさんに出会いました。その歩道は特にせまく、どこにも建て物のすきまや駐車場がありません。そこで私は考えて、良い案を考えました。それは電柱のかげにかくれることです。そうすることで、そのおばあさんは無事、道を通ることができました。

私はもう一つ、車いすの人がかばんの中の大切そうなメモを落としたのを見ました。その時、私は

「すいませーんそこの人！メモ落としましたよー」

と声をかけると、その人は

「ありがとうございます。助かりました。」

と言い、行きました。

私が思う「障がい者も高齢者もくらしやすい国分寺」にするために大切なことは、思いやりを持ち、たがいに思いやること、人々の優先順位をつけないことが大切だと思いました。急いでいるときなどはゆずれるひまが無いときもあると思います。そういう時でも「通ります」、「お先に通ります」などの声をかけることで、事こをふせげて、高齢者、障がい者がくらしやすい国分寺に一步、近づけると思いました。

第16回こども作文コンクール
銀賞作品

『国分寺だけでなくどこまでも』

国分寺市立第四小学校
檜山 遥月

国分寺駅は、しょうがい者も高れい者も使用しやすい駅です。それに階段は横幅が広く緩やかな階段で手すりもついています。

私が小学三年生だったころ、駅に出かける時に、手すりを使って重たい荷物を運んで大変なおばあさんがいました。その時わたしは何と声をかければ良いか分からず何もできませんでした。その時、近くにいた女性が

「何かお手伝いしましょうか。」

とたずねて会話をしながら荷物を持ってあげていました。その光景を見て私は、しょうがい者や高れい者のためにより良くしているだけではなく、人の手助けが大切なんだなど感じました。

また別の日、友達と電車に乗っていたらベビーカーのタイヤがすきまにはさまりうごけなかった人がいたのですが、近くにいた女性がお手伝いしてなんとかなりました。私たちは何もできず、

「すごいなあ」

とつい口に出してしまいました。そしたら、その女性が、

「またこういう事があったら手伝うんだよ。」

と言いました。その時、私もあんな人のように声をかけられるすてきな人になりたいと思いました。

このようにしょうがい者や高れい者のために利用しやすくなるだけではなく、人の手助けが大切であるということを学びました。この学びが国分寺だけでなく他の市や他の県にも伝わると良いのではないかと私は考えます。

第16回こども作文コンクール
銀賞作品

『～夜も明るい道を目指して～』

国分寺市立第四小学校
安田 陽向

じゅくの帰り史跡通りを通るのですが、暗くてぶつからないかこわいです。自転車の明かりや街灯もあるのですがまだ不安がのこっていました。それにご年配の方も通る道なので常に明るい道が安心して通れるのではないかと思っています。雨がふっているときはとくに視界が悪くぶつかってしまっている人もみたことがあります。昼間は自然が楽しめたり歴史を感じる見ためがぼくは好きです。なのであの道にむやみやたらに明かりをふやすのはていこうがあります。なのでおくばしょにいくつか案があります。

一つ目はしげみの中です。目だたないし、しげみがライトアップみたいで景観をそこなわずに明るさを追加できると思います。

二つ目は木の葉のなかに明かりを入れることです。木が光るとファンタジーみたいでオシャレだと思います。

これいがいにも方法はたくさんあると思います。とにかく夜の暗いとき、明かりがあると安心して帰れるので夜の道を明るくすることが安心な町への第一歩だと思います。夜の道を明るくすることが住みやすいにつながっていると信じていきたいです。

そして、ぼくも自転車に電気をつけたり反しゃばんをつけたりなど明るくする行動を続けていきたいなと思っています。でもこのまちはすごくよいところなのでこれからも大切に、よごさずに、楽しく住んでいきたいと思います。

ぼくはこのまちの自然が大好きです。これからもバリアフリー化が進み、障がい者の方たちにも国分寺の町を好きになってもらいたいとぼくはずつと思っています。夜の道の落ちつくふんいきをぼくはずつと大切に、そしてきていたいです。

第16回こども作文コンクール
銅賞作品

『車いす利用者も暮らしやすくするために』

国分寺市立第四小学校
飯塚 紗音

私はよく、街中で車いす利用者を見かけます。駅でも車いす利用者を見かけました。

駅では、車いす利用者が電車の乗車、下車の際に駅員さんがスロープを使って安全にサポートしていました。

ある日、街中で私が横断歩道の信号が青になっていたので、渡ろうと横断歩道に向かって歩いていたら、車いす利用者も横断歩道を渡ろうと横断歩道に向かっていました。と中で、車いす利用者が歩道の植木の段差にはまりそうになって、いそいで車いすのタイヤの方向を変えようとしていました。一步まちがえると、歩行者にぶつかったり、赤の信号の横断歩道にとび出してしまい、自動車とぶつかってしまうかもしれないのととてもあぶないと思いました。その時、私は声をかけて車いす利用者の方のお手伝いをしようか迷いました。でも、私はこれまで車いすを押したことがなかったので、どのように声をかけたり、自分にできることがあったりするのか分かりませんでした。

この時、車いすの使い方や、車いす利用の方の気持ちを学びたいと思いました。この間他の学年が総合の授業で車いす体験をしていたので、その時の話を聞きたいと思います。

道を車いす利用者の方も安全に通れるように段差をなくしたり、横断歩道が安全に渡れるよう、周りの人たちの配り方が大切だと思いました。私も、本を読んだり、専門の方に話を聞いたり、理解を深めていきたいです。

第16回こども作文コンクール
銅賞作品

『みんなが安心できるバス』

国分寺市立第四小学校
杉本 梨々子

私は国分寺が好きです。私は国分寺は暮らしやすい町だと思います。

私は習い事の往復で、いつもバスに乘ります。ある日バスを待っている時、ベビーカーをおしている家族に出会いました。バスはだん差があるので、ベビーカーを持ち上げるのが大変そうだなと思いました。

私は夏休みにフィンランドに行き、そこでもバスに乗りました。バスの中にはふつうのボタンもありますが、ベビーカーマークがついているボタンもありました。そのボタンをおすと、出口が少しフラットになり、ベビーカーを持っている人も楽に降りているのを見ました。日本にもあったらいいなと思いました。

東京などは子どものいる家族がたくさん住んでいます。他にも高齢者や車いすの人なども大変そうに乗っています。少し時間はかかりますが、フィンランドのバスのようにフラットになるボタンをいくつか設置してほしいなと思います。

また、いつもバスを使っている車いすの人にお話を聞いたことがあります。

その人は、「バスの中に1人でも車いすの人が乗っていたら、そのバスには乗れない」と言っていました。フィンランドのバスや電車では、折りたたみいすがあり、ベビーカーの人や車いすの人が2人以上乗れるスペースがありました。日本のバスも折りたたみいすや広いスペースをもうけてほしいと思いました。

第16回こども作文コンクール
銅賞作品

『だれもが住みやすい市「国分寺」』

国分寺市立第四小学校
フリツツ 理央

私は国分寺の良いところと改ぜん点だと思うことは一つずつあります。

私が三年生だったころ電車に乗っていると高齢者が大変そうに電車に乘ろうとしていました。ですがその電車はもう発車ベルが鳴り発車するまであと少しでした。

「もう乗れない」とあきらめかけているとき、私の電車に乗っていた20代くらいの大人の人が走って高齢者の方の所に行きました。すると、その人は高齢者の方が電車に乗れるように手を支えて歩くのを手伝っていました。その後高齢者の方は電車に間に合いましたが手伝ってくれていた人が乗れませんでした。その人は少し怒るだろうと私は思いましたが、静かに高齢者の方に手をふり、次の電車を待っていました。そこで改めて私は自分ができがてりいいのではなく高齢者の方も障がい者の方もさ別ぜずゆずり合うことが大切だと思いました。

私が国分寺市の改ぜん点だと思うのは安全性です。たとえば恋がくぼ近くの大通りには歩道が少なく、とても危険です。他にも光が反射しやすいガラスを作った店があるので車の運転手にとっては光の反射で信号機が見づらく、事故につながることがあります。そこでUDの信号機をつけるといいと思います。

UDの信号は色だけでなる印を使って分かりやすくしています。そのおかげで色弱の人でも信号を読み取れるので安心して運転できると思います。このように国分寺には安全な所もあれば危険な所もあります。高齢者の方や障がい者の方が住みやすい町づくりをしていくのが大切だと思います。

第16回こども作文コンクール
銅賞作品

『自分から』

国分寺市立第四小学校
吉田 葉月

国分寺市にはユニバーサルデザインがたくさんあります。新しくできた市役所には、自動ドアやエレベーターなどがあります。多摩図書館には点字の本などもたくさんあります。駅のまわりはユニバーサルデザインにかこまれた暮らしやすい所です。ユニバーサルデザイン以外にも、席や順番をゆずってくださったり、みんながやさしい市だと思いました。

それでも、自分は元気だから、他の小さい子や、高齢者にゆずってね。と、いつもお母さんは言います。「あ、こういう時に席をゆずらないといけないんだ…！」と思っても勇気が出ず、ただ、「この席どうぞ」と言うだけなのに声が出ません。すぐ近くにいるのに声をかけられないままになっています。

だから、私に声をかけて、席をゆずってくださった人達みたいに勇気をもって、さりげなく親切な人になっていきたいです。